

(1) カリキュラム・ポリシー

法経科第1部

法経科第1部では、法律・政治・経済・経営を中心に社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達について一定の理解をもった学生を育成するために、語学、教養系科目（共通科目）、法律・政治・経済・経営分野の科目を開設しています。法律・政治分野を中心に学修する学生は法律コースに所属し、経済・経営分野を中心に学修する学生は経商コースに所属します。

所属するコースに関わらず学生は卒業までに4つの語学から少なくとも1つを履修し、単位を修得する必要があります。さらに、所属コースの専門科目を学修するだけでなく、文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけることを目的に、教養系科目（共通科目）として人文科学系や自然科学系の科目を開設しています。学生は各自の興味関心に応じてこれらの科目を選択履修します。

○法律コース

法律コースでは、法律学系科目と政治学系科目を置き、これらに関する基礎知識の修得および最新の学問分野への理解を促します。そして、これらの学修成果を職業生活上の実践的課題に適用しうる人材の育成を行います。

1年次は、法律学系では憲法、民法、刑法、行政法、労働法など、政治学系では政治学原論、行政学などの履修を通じ、各分野を学修するために必要な基礎的な知識を修得します。2年次は、法律学系では民事訴訟法、刑事訴訟法、商法など、政治学系では地方政治論、政治史（政治過程論を含む）、政治思想史などの応用的かつ多様な科目の履修を通じ、1年次で学修した基礎的な知識を前提として、各分野における最新の学問分野について広く理解を促します。

また、1年次後期から開講される演習系科目では、各分野の諸課題の検討やディスカッションを通じて、これらの結果を職業生活上の実践的課題に適用しうる人材育成を行います。

さらに、教養系科目（共通科目）、経済・経営系科目、専修共通科目の履修を通じて、法学・政治学に限られない広い視野と寛容さを身につけた人材の育成をめざします。

○経商コース

経商コースでは、経済学系科目と経営・会計学系科目の学問分野を対象にし、体系的に学修できる教育カリキュラムを用意しています。そのために、経済学系科目と経営・会計学系科目を、リテラシー科目と基礎的な科目と発展的な科目に分けてカリキュラムを組み立てています。

1年次ではリテラシー科目と基礎的な科目を中心に学修します。リテラシー科目は統計学や簿記原理などです。基礎的な経済学系科目は経済原論、金融論、財政学などであり、経営・会計学系科目は経営学、マーケティング論、会計学などです。これらの科目は、各専門分野の初学者であっても学修できるように位置づけられています。

2年次では発展的な科目を中心に学修します。発展的な科目は基礎的な科目で学んだ各専

門分野の基礎知識を踏まえ、深く掘り下げて学修します。経済学系科目は国際経済論、地方財政論などであり、経営・会計学系科目は人的資源管理論、税務会計論などです。

また、1年次後期から開講される演習系科目では、各分野の諸課題の検討やディスカッションを通じて、これらの結果を職業生活上の実践的課題に適用しうる人材育成を行います。さらに、教養系科目（共通科目）、法律学・政治学系科目、専修共通科目の履修を通じて、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用し、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざします。

法経科第2部

法経科第2部では、社会科学の基本的な素養と幅広い教養を身につけた学生を育成するため、語学、教養系科目（共通科目）、社会科学の基礎的専門科目を開設しています。また、卒業年次には少人数で行う社会科学演習を開設し、指導教員の下で各自が選択したテーマを深めていけるようにしています。

学生は卒業までに4つの語学から少なくとも1つを履修し、単位を修得する必要があります。

社会についてのみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけることを目的に、教養系科目（共通科目）として人文科学系や自然科学系の科目を開設しています。学生は各自の興味関心に応じてこれらの科目を選択履修します。

社会科学の基礎的専門科目は、法律・政治系科目と経済・経営系科目を開設し、両者をバランス良く選択履修することで、社会科学全般の基礎的な学力を身につけることができます。また、卒業年次には社会科学演習に所属し、自分が探求したいテーマを指導教員の指導の下で学ぶこととなります。

また、法経科第2部では、多様な年齢層の方に柔軟な教育体制を提供するための長期履修制度を設けています。長期履修制度では、通常2年間で卒業する課程を3年または4年かけて卒業することを目指しており、自分のペースでゆっくり時間をかけて学びたいという希望をお持ちの方はどなたでもこの制度を利用できます。

法経科第2部では以上のようなカリキュラムを通じて、「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という学生の願いに応えながら、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざします。

食物栄養学科食物栄養学専攻

食物栄養学科食物栄養学専攻は、食に関する専門知識と技能を融和させて実践できる能力を有し、豊かな人間性と高い倫理観で適切な栄養管理・指導ができる人材の育成をめざします。

そのため、本学科では「基礎科目」として「語学基礎」と「専修基礎」、全学共通の一般教養科目である「共通科目」、および「専修科目」を設置しています。

「専修科目」は、必修科目と栄養士免許必修科目（栄養士免許を取得するために必要な科目）、関連科目で構成されています。栄養士免許に関わる科目（必修科目、栄養士免許必修科目）は、「栄養士法施行規則」に定められた教育内容・単位数に準拠して編成し、加えて食による一次予防の重要性に鑑み、健康増進や疾病予防に必要な教科の充実を図っています。また、食の専門家として必須な技術を身につけるため、さらに講義で習得した知識をもとに食と健康に関する多様な課題に対してより主体的に考え解決しようとする姿勢を身につけるため、実習、実験、演習を多く取り入れたカリキュラムを編成しています。関連科目として、2年次に「管理栄養特殊講義」と「特別演習」を開講し、より高度な専門知識や科学的論理的思考力、地域社会で活躍できる実践力・指導力などの習得をめざします。

生活科学科生活科学専攻

生活科学科生活科学専攻は、社会福祉、心理、住生活、環境、情報といった分野を柱として、「いのち」と「暮らし」に関わる学問を修得し、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。そのために「生活福祉・心理コース」および「居住環境コース」を設置しています。本学科の学生は、全学共通の一般教養科目であるところの「共通科目」、生活科学科を構成する2コースに共通する科目である「生活基礎」に加えて、社会福祉や心理に関わる専門科目としての「専修第一分野」、住生活や環境問題、情報科学にかかわる専門科目としての「専修第二分野」に指定された科目を履修しなければなりません。また、「生活福祉・心理コース」に所属する学生は前者を、「居住環境コース」に属する学生は後者を主として履修することになります。

○生活福祉・心理コース

「生活福祉・心理コース」では、社会福祉や心理に関わる専門科目に加えて、福祉と心理をつなぐ役割を果たす科目として「福祉心理基礎演習」や「福祉心理演習」を設け、1年次後期から各自が関心のある分野の指導教員の下で学ぶことができます。また、社会福祉士を目指す学生のために、福祉の基幹的な科目に加えて、社会福祉士国家試験の指定科目（「社会福祉士発展科目」）を開講しており、必要な授業科目を履修した者は「社会福祉士基礎資格」を取得することができ、卒業後に指定施設での2年間の実務経験の上で、社会福祉士国家試験の受験資格を得ることができます。

○居住環境コース

「居住環境コース」では、インテリアから、住宅や建築、都市計画やまちづくり、環境問題、情報科学まで幅広い分野の専門科目に加えて、これら専門分野の全体像を理解し、幅広い視野を養うための科目として、1年次後期に「居住環境基礎」を設けています。さらに、2年次から、より専門的かつ高度な専門性を修得できる科目として「居住環境特別演習」を設け、各自が関心のある分野の指導教員の下で学ぶことができます。また、建築士を目指す学生のために、1級建築士および2級建築士資格取得に必要な建築士指定科目を開講しており、必要な授業科目を履修することによって、卒業時に1級建築士および2級建築士の受験資格

を得ることができます。